



まちの日記帳

いつまでもお元気で！

3/14

きさらぎ会（河岸栄子会長）が、エイジングステーション「やすらぎ」を慰問し、約25名の入居者や通所者の前で、歌や踊りを披露しました。

この慰問は、10年程前から例年この時期に行っているもので、「矢切りの渡し」や「白雲の城」などの舞に大きな拍手を送っていました。

また大正琴による「夕焼け小焼け」や「ひなまつり」などなじみのある曲に、入居者は手拍子とともに口ずさみながら琴の演奏に聞き入っていました。

河岸会長は、「冬の寒さに負けず、皆さんが楽しんでくれて、元気でこれからの生活の活力になってくれたらうれしいです。この慰問は、これからも続けていきたいと思います。」と話してくれました。



おもてなしの心を大切に！

4/11

積丹観光協会（佐藤勝次会長）の主催による接客接遇講習会が役場庁舎において行われました。

観光を主体とした町づくりの一環として「おもてなしの心をもった接客接遇」を身につけてもらおうと昨年に引き続き開催した講習会には、町内観光施設の担当者等43名が参加。講師にビジネスマナーコンサルタントの樁武愛子氏を招き、電話の応対や言葉づかい、礼儀作法などについての実技指導に、参加者は恥ずかしがりながらも接客術を身につけようと熱心に聞き入っていました。



ふるさと積丹をなつかしみ

4/14

札幌市とその近郊で生活している本町の出身者で構成されている札幌しゃこたん会（大沢哲会長ほか会員147名）の定例総会がKKR札幌ホテルで開催されました。

この日は、会員56名と来賓あわせて61名が出席し、総会では今年度の事業計画や収支予算などが決定されたのち、交流会が行われ、生まれ育った故郷「積丹」でのなつかしい思い出話に花を咲かせていました。

また交流会では、宝酒造から先頃発売され、北海道遺産に選定された神威岬の写真ラベルが施された焼酎「JAPAN」が当たる「お楽しみ抽選会」が行われるなど出席者は楽しいひとときを過ごしていました。



元気に育て！

4/15

東しゃこたん漁協では、エゾバフンウニ種苗2万粒を幌武意地先に放流しました。

これは、町水産種苗生産センターで15mmまで成長させた種苗で、この日は漁業者4名と関係者4名の手により放流されました。

同地先は、餌料である昆布の繁茂状態が良好で関係者は「元気に育て」と大きな期待を寄せながら放流していました。



山火事に注意！

4/19

積丹町林野火災予防対策会議が役場庁舎で開催され、平成18年度の予防対策重点事項などについて話し合われました。

平成17年は幸いにして山火事の発生はありませんでしたが、特に空気が乾燥し枯れ草等が残る4月下旬から5月下旬は、山火事の危険性が非常に高く、同協議会では5月31日までを「林野火災予防強調期間」として注意を呼びかけています。

山菜採りや釣りなど山へ入るときは、たばこや焚き木の不始末がないよう十分気をつけて、貴重な緑の資源を守りましょう。



1年の安全運航を祈願

4/20

積丹観光振興公社（葛西幸子社長）が運航する水中展望船「ニューしゃこたん号」の安全運航祈願祭が美国漁港で行われました。

祈願祭には、役員や関係者ら約20名が出席し、シーズン中の安全運航と事故防止を願いました。

昨年は2年連続して3万人を超える利用者が訪れ観光客の目を楽しませてくれました。

運航は、4月22日から始まっており、本格的な観光シーズンに向け多くの利用者が期待されるところです。

